

令和2年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	富士山河口湖音楽祭実行委員会	
施 設 名	河口湖ステラシアター	
助成対象活動名	人材養成事業	
内定額(総額)	4,711	(千円)
	公演事業	0 (千円)
	人材養成事業	4,711 (千円)
	普及啓発事業	0 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	富士山河口湖音楽祭 2020 茂木大輔、上野耕平等による音楽祭アカデミープログラム	8/16, 18, 22 ※	上野耕平 (サクソフォン) 宮川彬良 (音楽家) シエナ・スピリッツ (吹奏楽)	目標値	500
		河口湖ステラシアター		実績値	17,269人 (視聴数)
2	富士山河口湖音楽祭 2020 中学生吹奏楽特別バンド 編成、特別合唱団編成等	8/9~8/23 ※	上野耕平 (サクソフォン)、川瀬賢太郎 (指揮)、宮川彬良 (音楽家) 薬袋貴 (指揮)、特別バンド、合唱団	目標値	250
		河口湖ステラシアター		実績値	98人
3	富士山河口湖音楽祭 2020 文化ボランティアの活性化と若年層ボランティアの育成	8/13~8/24	音楽大学アートマネージメント専攻学生滞在育成プログラム	目標値	8 予定 (延べ11日間、45分)
		河口湖ステラシアター		実績値	2人 (12日間)
4	富士山河口湖音楽祭 2020 音楽祭特別編成・若手演奏家育成アカデミープログラム	—	※コロナウイルスの影響により中止	目標値	15 予定
		—		実績値	—
5	富士山河口湖音楽祭 2020 海外オーケストラと共に創る公募型合唱育成プロジェクト	—	※コロナウイルスの影響により中止	目標値	300 予定
		—		実績値	—

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

富士河口湖町は、平成15年に当時の河口湖町、勝山村、足和田村、そして平成18年3月に上九一色村の一部が分村合併により生まれた町です。旧河口湖町が平成元年から将来ビジョンとして観光産業に文化芸術を取り入れた町づくりをスローガンに、五感文化構想（視覚、聴覚、味覚、臭覚、触覚）を立ち上げ、ホール、美術館、ハープ館など文化観光の拠点施設を設置し各施設が町の生産性を高めるけん引役を担い、施策によって町の人口規模も飛躍的に伸びていった町です。その中核となる聴覚分野を担う河口湖ステラシアターは、3000名収容の野外音楽堂で、平成7年の開館当時は完全な野外音楽堂であったものの、平成19年に可動屋根を設置し、全天候型野外音楽堂として現在に至ります。町直営であることを踏まえて当初から運営に住民の参画を促し、一緒に活動を共にする中で、地域文化ボランティアを中核とした富士山河口湖音楽祭を平成14年に佐渡裕さん監修によりスタートいたしました。令和2年で音楽祭は19回目を迎え、住民参加型創造音楽祭という形式の中で培ってきた実行委員であり、ホール開設当初からの文化ボランティアも企画立案の重要なポジションもできており、まさに住民と一緒にになったホール運営になっています。当初からのボランティアも90才近くなるが、今でも現役であり実行委員長も担っており、その活動の後ろ姿が、60代、70代の活動における精神的な支柱となっており、やりがいから生きがいになっております。併せて小学高学年と中学生のジュニアボランティアも大人の取り組みを見て一緒に活動をしています。国内各地で高齢化が更に進んでいる中で公共ホールの役割は、益々重要な位置付けになっており、むしろ一緒に活動していく仕組みを強化するべきかと思われま。また、音楽祭を開催することにより、全国各地の主要な音楽祭として当音楽祭も取り上げられており、地域の文化ブランド作りにも貢献しており、また、県外から訪れる来場者も多く宿泊促進、音楽祭におけるミニ演奏会開催に伴う来場者の増加、また、周辺レストランなどホールに関わる周辺の施設が、音楽祭開催における大小合わせたプログラムが有機的に機能し、各所に良い影響が出てきています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ホールの事業が中止ないし延期となったこともあり、富士山河口湖音楽祭の予定していた事業も大幅に見直しせざるを得ない状況の中で、人材養成事業を実施していきま。当町は観光地でありイベントに対する経済活性化事業の理解度は非常に高い地域ではあるが、夏までの事業はほとんど中止になってしまい、新規の観光集客事業を1回真夏に行った以外は、富士山河口湖音楽祭でのオンライン配信プログラムのみ実施する状況になってしまった。結果、生放送によるオンライン配信事業ではあるが、全国各地に発信できた夏の当町における唯一の事業となりました。併せて、感染症対策をしながらではあるが、中学生を対象とした山梨県吹奏楽特別バンドの編成、OBメンバーによる吹奏楽団の編成は、予定どおり実施でき、地域の内でも新型コロナウイルス感染症の影響で社会の動きが止まっている世情の中で、教育的な効果及び社会を元気づける効果を上げることができたと思われま。

平成30年に制定した第二次富士河口湖町総合計画の中では、「歴史・文化の保護継承と新たな芸術文化の創造と振興」における具体的な町民の文化度を表す指標の具体的なプログラムとして、毎年夏に河口湖ステラシアターで行う「富士山河口湖音楽祭」が位置づけられています。文化が経済をリードする街づくりの中核として、音楽祭がすべてを融合する音楽を主体とした芸術文化プログラムの牽引役を担っています。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

町の生産性向上に貢献するホール、文化が経済をリードするまちづくりに貢献する視点をもちながら、拠点となるホール（河口湖ステラシアター）が、観光地におけるホールの在り方を実践する場所となっており、周辺観光施設、飲食店、ショッピングセンター等各施設に対し、集客に伴う経済的な恩恵を与える施設となっています。併せて、外部からの流入人口を増やすことから広域的な地域の生産性を高め、新たな音楽団体の受け皿となり目的（音楽）を持った滞在の仕組みができる施設であり、町全体の魅力づくりに貢献する一助を担っています。一方で、ホールの中核事業として、良質なクラシック音楽祭があることは、地域の文化芸術性を高める機会を醸成する場となっています。また、ホールの運営側に住民も参加できる仕組みも構築しており、住民参加型創造音楽祭の形態が、文化芸術を通じた総合的なまちづくり事業の一助にも繋がっています。

令和2年度には、新型コロナウイルスの影響があり、周辺エリアのイベントがほとんど中止ないし延期になっている状況を踏まえて、各事業をライブ配信の形でコンサートを開催せざるを得ない状況であったが、ライブ配信を行ったことによって、全国各地の皆さんと相互につながる機会になり非常に意義あるプログラムになりました。特にこれまで会場を訪れたことが無い方にも、新たにホールや音楽祭を知ってもらう良い機会になったことが、アフターコロナに向けて必ずやつながる活動になったことと思われま。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

ビジョンとして掲げる、(1) 町の生産性向上に貢献するホール、文化が経済をリードする町づくりに貢献、(2) 人生100年時代、人がすばらしい人生を歩むための文化づくり～ホールが人の心をつむぐ100年構想、(3) 幼少期から高齢者までの地域福祉に貢献するホール、社会の交流の窓口としての役割、(4) 地域経済活性化に貢献するホール、訪日外国人の滞在における新たな仕組づくりに貢献、(5) ホールが、富士山の新しい文化づくりを育む拠点、音楽と人をつなげる交流に貢献、5つの視点を踏まえてプログラムを構築し、ホールを拠点に富士山河口湖音楽祭を開催しています。

このビジョンに対して、ホールを基軸にどのように地域に貢献していくのか、ホールの存在自体が事業を通じて更に必要性を持たれるよう様々な角度でタイアップするなどして、具体的な目標設定を行っています。足元の地元理解度を深める手法として、ホール運営の中に、運営文化ボランティアの仕組みを長年構築しており、助成対象プログラムである富士山河口湖音楽祭を関わりの中核事業として位置付けております。富士山河口湖音楽祭は、ホール、自治体、学校吹奏楽部顧問、一般ボランティアを構成員とする実行委員会が主体となり、それぞれの分野の皆さんの立場や意見などをまとめながら住民参加型創造音楽祭として実施しております。地方自治の観点で、町の財産として設置するホールを住民が自分たちの物として深く捉えていくために、企画プログラムに主体的に関わっていく手法を取り、富士山河口湖音楽祭を受け皿に機運を高めていきます。その結果、住民の企画制作能力の向上へとつなげ、将来的なホールの利用増加なども含めて自ら地元で企画を主催できる方（地域企画コーディネーター）を育成する視点も持って事業を展開していきます。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響があり、事業を大幅に縮小し展開していくことになっており、延べ61人の参加により事業を展開いたしました。

また、音楽大学等アートマネジメントコースで学ぶ若者と、地元運営文化ボランティアの交流から生まれる支援体制も強化しております。ホールを支える地元運営文化ボランティアの方々は、地域住民とのコミュニケーションのつなぎの役割を担っています。住民の理解度を深めるためボランティアコーディネートは重要な役割です。支援体制の強化を将来的に行うためにも、若年層ボランティアの育成は急務であり、今後益々人口が減少していく上で、地域の担い手になる仕組みを構築することはホールとしての役目でもあります。新型コロナウイルス感染症の中で、人々の活動が制限されている中ではありましたが、令和2年度は2人の参加があり、住民文化ボランティアの皆さんとも良き交流の場となり、今後のホールに関わる人材の育成にもつながったと思われま

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

富士山河口湖音楽祭は当初の計画では、2021年7月からプレ演奏会を計画し、8月14日（金）から22日（土）に終了する予定で事業計画を立案しました。新型コロナウイルス感染症の影響がありホールの事業が軒並み中止や延期に見舞われる中で、富士山河口湖音楽祭の事業内容も大幅に見直さざろう得ない状況でありましたが、町、住民ボランティアの理解と協力により、8月15日（土）～8月23日（日）の間に、オンラインによりコンサートを生配信し各事業を実施しました。事業の内容は、この音楽祭の特徴の一つである山梨県内中学生吹奏楽部メンバーへの公募による中学生バンドや特別合唱団プロジェクトに関して、若干中身を修正しつつ、感染症対策をしながら実施できる方法に変えて、予定どおり事業は実施することができました。中学生バンドは、ご父兄も理解をいただいた17名が参加し、中学生バンドOB吹奏楽団として48名、また、特別合唱団として33名が集まりました。感染症の影響で参加すること自体に個々の難しい状況の中での参加する判断は、実行委員会ははじめ関係者も勢いを増す機会になりました。併せて、関わるすべての皆さんの気持ちを総合的にまとめるポイントとなっており、次年度につながる大きな土台になっています

事業費は感染症の影響もあり大幅な事業内容の変更や一部公演が中止となるなど大きく変更せざろう得ない状況でしたが、オンライン配信によるコンサートを開催しながら、人材養成事業を実施できました。実施できたことにより、各教育プログラムを支える吹奏楽や合唱指導者及び参加者のモチベーション維持につながり、今後につながる動きが作れたことが非常に財産となっております。

#### (4) 創造性

##### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、周辺エリアのイベントがほとんど中止になっている中で、感染症対策をしながら、河口湖ステラシアターだけで富士山河口湖音楽祭の事業を実施しました。河口湖ステラシアターは全天候型可動式屋根を持つ野外音楽堂になっており3密にもならないことから、例年はホール内での対面によるコンサート形態で行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、令和2年度ライブ配信をしながらコンサートを実施しました。8月15日～23日までの富士山河口湖音楽祭期間中の間、山梨県内中学生を公募して編成する音楽祭山梨県中学生バンドプロジェクト、また合唱団プロジェクト、演奏会の公開リハーサル開催などの教育プログラムを実施しました。当初は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、事業を中止することも検討をしましたが、感染症対策をしながら事業を実施する中で、中学生バンド、OBバンド、合唱団の編成など、参加者や参加者のご父兄などの理解がなければ事業の実施はできなかったであろう各事業が実施できただけでもとても意義深い状況でした。

8月16日（日）に行いましたサクソフォン奏者上野耕平が贈るオンライン演奏会&クリニックでは、感染の影響が広がり父兄や先生も不安を持っていた方も多いかと思われませんが、総勢17名の山梨県下の中学生吹奏楽メンバーが集まりました。例年100名前後の参加がある中ではあるが、新型コロナ感染症の影響で参加できない環境に置かれている子供たちも多い中で、多くの理解に支えられ17名の参加があったことは、実行委員会ははじめ関わるボランティアの皆さんや関係者のモチベーションに大きく寄与した出来事となりました。この17名のメンバーにプラスして、これまで中学生特別バンドに参加した経験のある吹奏楽メンバーからも公募し、予想以上に賛同を得て48名の参加がありました。この2つのグループを混ぜ合わせてバンドを編成し、サクソフォン奏者上野耕平さんの指導により、公開バンドクリニック&演奏会を行いました。課題曲であるホルスト作曲：吹奏楽のための第一組曲や和泉宏隆作曲：宝島を取り上げ、上野さんの指導により音がどんどん変わっていく様子がわかり、ライブ配信中に、県外からの視聴者の生のコメントがたくさん送られ、ライブ配信による実現できたことによる新たな音楽祭の見え方も発見する機会となりました。ライブ配信中に視聴者の数は上昇し10000を超える参加者があったことは、対面ではコンサートができない環境の中で、多くの方々に音楽の魅力を発信できたと同時に、参加した子供たちのスキルアップと良い経験になったことと思われれます。

一方で、富士山河口湖音楽祭の教育プログラムのもう一つの柱である合唱プロジェクトは、全年齢から集まった総勢33名の合唱メンバーにより、8月18日（火）に翌日に控えた宮川彬良さんによる演奏会の公開リハーサルとして、河口湖ステラシアターにて開催いたしました。本来は6月ごろより公募により集まった合唱団による練習をスタートさせる予定であったが、感染症の影響により、一時は中止の選択肢も検討しましたが、関係者の努力と実施しようという思いで、感染症対策を行いながら、プログラムを実施しました。宮川彬良さんの楽曲を使い、宮川さんの親切、丁寧な指導は、歌うことを自粛せざるを得ない中での塞ぎようのない歌いたい気持ちと相まって、心から紡がれる歌のハーモニーとなり、伸びやかな、深みのある歌声の響きとなって広がりました。ライブ配信によって各地に届けられた映像から、視聴者にその様子が届けられ、感動しているコメントが寄せられた。吹奏楽プロジェクトと同時に、感染症の影響で自分たちの大好きな音楽を奏でることができない環境の中で、多くの方にその響きが広く伝わったと思われれます。令和2年度の事業が能動的に受け止められ、アフターコロナの下地になるうかと思われれます。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

富士山河口湖音楽祭は平成14年から開始し、音楽祭の柱として、山梨県下の中学生吹奏楽部から公募した音楽祭中学生特別バンドの動きがあります。大きな目的の一つには将来人口の維持の視点を持っています。平成12年に89万人の人口をピークに、山梨県は現在約81万人の人口になっています。20年後には人口が約66万人にまで減少幅が大きくなる推計が出ております。その中で、地域に少しでも愛着を持ち、地域に戻り生活の拠点を山梨県内に持つ若者の定着度を深めるためには、幼少のころから楽しい思い出をたくさん作り、山梨で将来生活をしようと思う心の基盤を作る思いも持ってこのバンドプロジェクトを開催しています。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で、一時は中止を検討せざるを得ない状況ではあったが、感染症対策を実施し、ライブ配信によるコンサート形式として実施することができました。人材養成事業として、アカデミープログラムや、アートマネージメントコース学生と地域文化ボランティアによる交流事業など、感染症の影響による活動制限が高くある中で、実行委員をはじめ、町など関係機関の協力と理解をいただき、実現できたことが非常に意義を感じる機会となりました。奇跡となるくらい、周辺のイベントは中止されていただけに、地域の中でもイベントが開始できたことが、その後の活動開始の推進役になったことが大きい。こうした状況の中で、山梨県下の中学生や合唱メンバーが集まったことは非常に意義があり、抑圧された環境下であったことから、実施できたことにより、参加した方の感動感は大きく、また支えた側も今後につながる結束感も更に強くなりました。また、サクソフォン奏者上野耕平さんや、シエナウインドオーケストラメンバーの皆さんもコンサートが中止が多い中で、久々の本番の機会となり、その分、各アカデミープログラムが開催できる意義をライブ配信によりメッセージとして発信していたこともあり、音楽祭のライブ配信を通じて、地域のみならず、全国に音楽の大切さ、文化プログラムを開催できたことの意義を共有できたことと思います。こうした動きが令和3年度の富士山河口湖音楽祭へつなげていきたいと思っています。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

河口湖ステラシアターは平成7年5月開設以来、住民の参画をホール運営の根幹に据え、各コンサートを住民が鑑賞するだけでなく、来場者をもてなす側にも住民が立つ仕組みを作り運営しております。一方で、観光地におけるホールの有り方を実践する場所であり、文化が経済をリードするまちづくりの中心施設でもあったことから、地元主要産業である観光に対して、文化芸術をマッチさせた事業展開を行う中心施設としてホールを活用し、町の生産性向上をけん引する施設としても位置づけております。平成10年5月にオープン以来参画してきた文化ボランティアを中心メンバーと一緒に発展的に組織化していく中で、ステラシアターサポーターズクラブに名称も新しくして、ホール運営を主体とした文化ボランティア組織としてホールを支え、現在に至っております。富士山河口湖音楽祭を実施する中で、行政、吹奏楽連盟や合唱連盟といった各種団体、地元オーケストラ団体メンバーや学校吹奏楽部顧問、そして、ホール運営文化ボランティア組織サポーターズクラブと、実質的に取りまとめる役割のホールが一緒になりながら、河口湖ステラシアターをメイン会場として音楽祭を開催しています。サポーターズクラブの登録者は例年約60名が登録をしており、その中の2名が運営だけではなく企画立案も行う音楽祭実行委員会に所属しております。音楽祭期間中は、新型コロナウイルス感染症の影響で、参加するプログラムが限られていたが、こうした状況下だからこそ、参加された運営ボランティアの気持ちは深く強いものになっています。平成22年度から昭和音楽大学と連携して事業を取り組む活動を行い、令和2年度で11年目になります。これまで26名の学生が文化ボランティアメンバーとして参加し、地元文化ボランティアと一緒に活動する中で、運営業務などを行い、ボランティア交流を行いました。令和2年度は2名が参加し、8月13日（木）から24日（月）までの12日間滞在しました。感染症の影響で各地の受け入れ先が無いことが多い中で、音楽祭の人材養成事業を中心としたプログラムが受け入れ先となり、結果学生と地域文化ボランティアの相互にかかわりを踏まえて、音楽祭の主要なプログラムを実施することができました。富士山河口湖音楽祭では、年配の方が多い運営ボランティア組織ステラシアターサポーターズクラブメンバーや、小中学生による地元ジュニアボランティア、アートマネジメント専門大学からの学生文化ボランティアの関わりなどいろいろな所属から成るボランティアの仕組みの中で、プログラムを開催し、運営していることから、富士山河口湖音楽祭の開催を通じた河口湖ステラシアターにおける複合的な文化交流拠点になっており、関わりが深く相互にコミュニケーションを図らないと運営に支障を来す原因にもなることから、ホールに対して深く思いを持つ機会にもなっております。こうした地域住民が支えるホールとして、持続可能なそして、地域に支えられるホールを目指して、各種事業を実施しております。